

平成元年度土佐国衙跡発掘調査

政庁にせまる遺構確認

官衙関連の建て物や区画溝



現地説明会に多くの人出

平成元年度土佐国衙跡発掘調査がこのほど終了、多くの官衙に関連する建物跡が確認されました。

土佐国衙跡は、昭和三十八年に県史跡に指定された重要な地方官衙遺跡です。その構造を解明、保存整備等の資料にするために、昭和五十四年から県教委が発掘調査を行っており、今回は第二十三次調査になります。これまでにも官衙関連の遺構が検出されていますが、政庁跡等

中心部は確認されていません。今回調査されたのは、金屋及び神ノ木戸五三六平方メートルで、これまでで最も多い九棟の掘立柱建物跡や塀跡、溝跡等を検出、土師器や青磁など約四千点の遺物が出土しました。

このうち、金屋地区では柱間距離が二・一メートル、二・四メートル、二×四間の東西棟の建て物跡を検出。全国的な官衙の主要な建て物の規模と同じであることや、四隅の柱穴から地鎮祭のとき埋められたとみられる完形の土師器の杯が出土したことから、中心的なものではありませんが、かなり重要な建て物と思われるます。

また、神ノ木戸地区では南北に延びる溝跡を確認。二年前に検出された溝とともに、国府城を考える重要な資料となる可能性もあり、注目されています。これまでの調査では、比江の中央部へ行くほど官衙関連の建

物跡が多く確認されていることから、この中央部の調査が土佐国衙跡解明の大きな鍵を握ると考えられます。

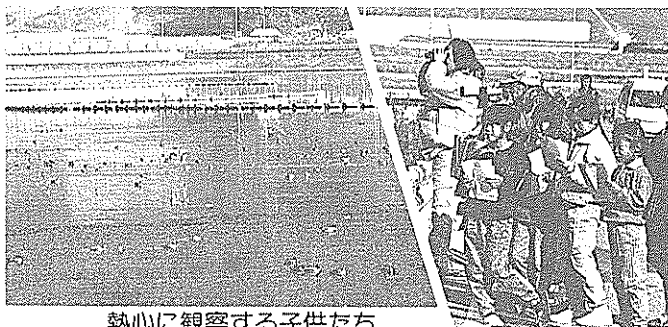
十二月二十三日には現地で説明会が開かれ、八十人余りが参加。説明を受けた後、金屋地区で検出された柱穴に立って建物の大きさを確認するなど、当時の比江の様子を今にオーバーラップさせていました。

石土池の自然を満喫

第1回南国市バードウォッチング クイズ大会

第一回南国市バードウォッチング、クイズ大会が、十二月二十三日に十市の石土池で開かれ、地元の小中学生や愛好者など約百人が参加して、野鳥の観察やクイズを楽しんでいました。

石土池は、県下でも有数のガ



熱心に観察する子供たち

ンやカモの飛来地であり、この季節には二千羽から三千羽、百種類以上の野鳥が見られ、昭和六十三年には特別鳥獣保護区に指定されています。

参加者は双眼鏡などを片手に池の周りを散策、自然を満喫していました。

クイズ大会の結果は次のとおりです。(敬称略)

南国市教育長賞 武田勝グルーブ(後免町) ▼南国市体育協会長賞 西村有希(十市小) ▼藤田ゆみこ(十市小)

三和小に本の

プレゼント

故里見義裕さん

高知学研前会長の故里見義裕さんが三和小学校に十万円相当の図書を寄贈、十二月二十一日に長女の朝代さんが同校を訪問し、土居朝江校長に目録を手渡しました。

これは、義裕さんの妻で一昨年逝去された巴代子さんが同校の卒業生であったことから、故人の一周忌の香典返しとして寄贈されたものです。

この日同小学校を訪れた朝代さんは「母も本が好きでした。皆さんも仲良く勉強してください」と、子供たちにメッセージを贈りました。

なお、里見義裕さんは、十一月逝去されました。



校長に目録が手渡される